

166
556

SERMON SERIES.

THE APOSTOLIC CREED.

Rev. John Pulsford.

耶穌降生千八百九十五年

講演集

使徒信經略解

明治廿八年四月

メソヂェスト出版舎

020691-000-2

特52-608

使徒信經略解

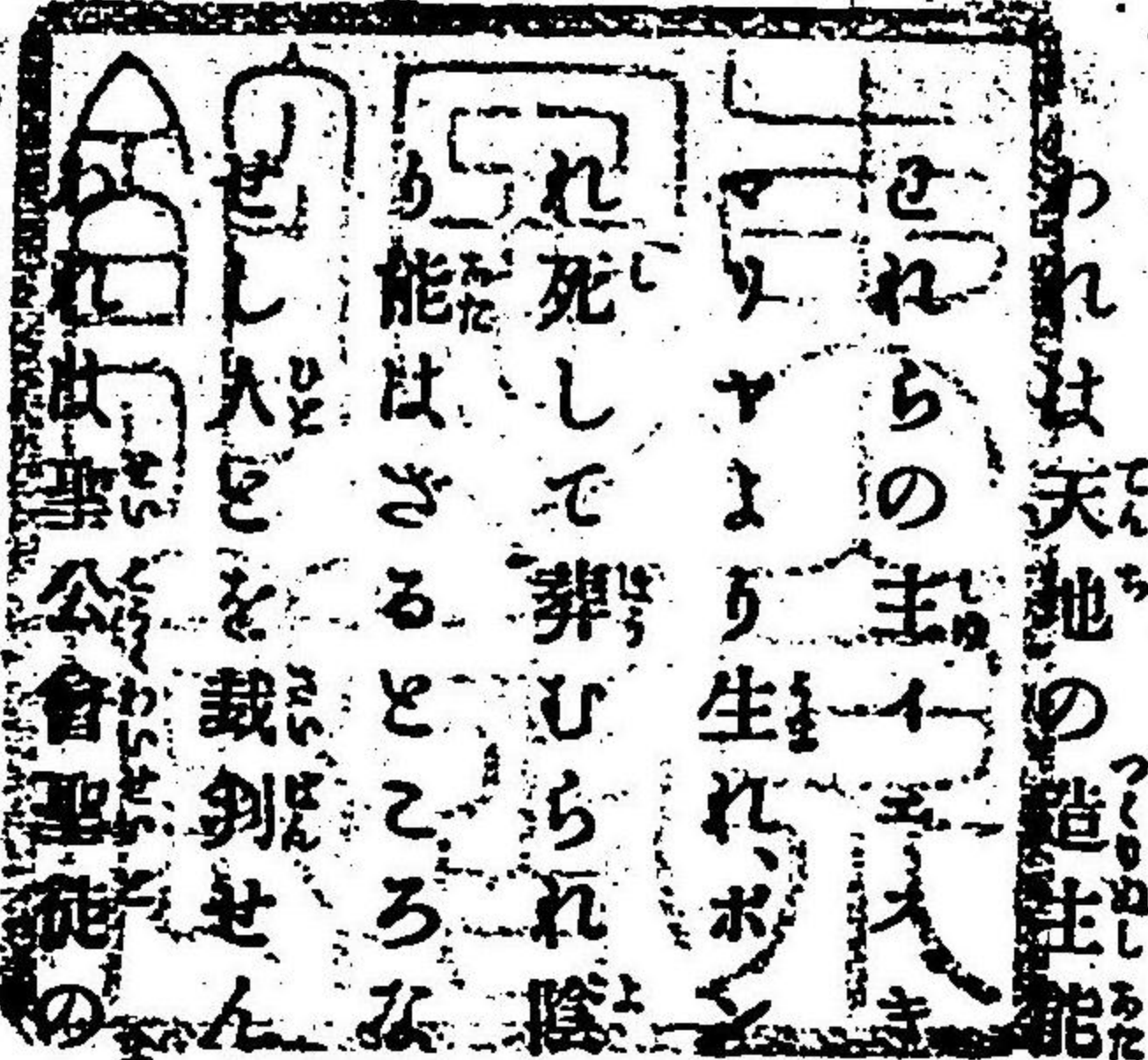
ジョン・プルスオールド/述

M28

ABI-0508



使徒信經畧解



これは天地の創造能はざる所なき父ある神を信すればその獨子

これらの主イエスキリストを信す彼は聖靈によりてはらまし處女

マリヤより生れボネテオピフトの時苦しみを受け十字架につけら

れ死して葬ひられ陰府に下り三日目に死人の中より甦り天にのぼ

り能はざるところなき父なる神の右に坐し彼所より生ける人と死

せし人をも裁判せんがために來り給はんを信すわれは聖靈を信す

此信經は果して使徒等の作りしものなるや否やは今より知るところ

にあらざれども使徒信經とあればこは確かに使徒の信經なり僅に數

行の文章にして言語も極めて平易あれども新約聖書に載する基督敎

の文章にして言語も極めて平易あれども新約聖書に載する基督敎

の文章にして言語も極めて平易あれども新約聖書に載する基督敎

の文章にして言語も極めて平易あれども新約聖書に載する基督敎

の文章にして言語も極めて平易あれども新約聖書に載する基督敎

の文章にして言語も極めて平易あれども新約聖書に載する基督敎

の文章にして言語も極めて平易あれども新約聖書に載する基督敎

の文章にして言語も極めて平易あれども新約聖書に載する基督敎

の文章にして言語も極めて平易あれども新約聖書に載する基督敎

の文章にして言語も極めて平易あれども新約聖書に載する基督敎

の文章にして言語も極めて平易あれども新約聖書に載する基督敎

の文章にして言語も極めて平易あれども新約聖書に載する基督敎



の大教理を簡単に完全く言ひ盡したるものなり。最も感すべきはその毫も人の意を陳べず人の説明を加へざることをあり。只簡単に基督教の大事實を記せるのみにして他に何の言ひ草をも用ゐず。されば人は如何様に之を語り如何様にこれを説明し又如何様に之を引用するも凡てこれ争ふべからざる事實にして、確實なる聖書的証明によりて證せられ得べきなり。

基督教會は皆此事實の上に立つべきなり。羅馬教會も希臘教會も新教會も、或は國教々會も非國教々會も、或は華美莊麗の教會も粗造茅屋の教會も、儀式を重んずる教會もはたまた儀式を重んぜざる教會も皆此聖書の事實の上に立つべきものなれば、こは實に教會の基礎たるべきものなりとす。

凡そ基督教徒は皆此事實を信すれば此使徒信經は即ち基督教會の根

本の一致することの表あり。世界至る所基督教徒は神の前に天使の前に萬人の前に抑も又悪魔の前にさへ己の信仰は即ち只此古くして廣大に實き信經なることをば堂々として公言するなり。

基督教徒のかくも相一致して衷情より此信經を公言するは天に在る數限なき神の使者及完全くせられたる義人の靈魂の大に喜みするところにして、天の同情助力を受け地獄と暗黒の力を滅すべきものありとす。

(一)われは天地の造主能はざるところなき父ある神を信す。われは無神論者にあらず。わが理性は云ふ。われは神を信す。わが情は答ふ。われは神を信す。われは又只漠然力あり智慧あり且善なる或物を信する。彼自然神教徒にもあらず。これは父なる神を信す。われは心を盡し情を盡し力を盡してこの健全にして愉快ある信仰を守らん。われには能はざ

るところなき父あり、われは即ち其子にしてわが父のみまへに尊敬せらるべきものなり。

四

われは神のわが父あることを信するが故に神より直ちに與へられたる福音を信じ、又わが身の情態を考へ大に同情を以てこれを信せんとす。

われは能はざるところなき父ある神は天地の造主あることを信す。われは天地の偶然に生り出でたることを信せず、又その己の力によりて生れりとも信せず。われは天に在すわれらの父に造られ、父は其子あるわれらの爲に此天地を造り給へるを信す。天に獨りの父あり、罪と苦と悲とよ充てる地にも亦獨りの父あり、われは能はざるところなき父のみもとにわれれば寝ねて安らかに眠り、明る朝を祝ふて喜ばしく起き出づるあり、喜も樂も亦試練もともに父より賜はれば、われは凡を喜び受

くるあり、神には苦難なれば、われは平和の中に病んで死すべし、神はわが父なれば、父の愛し給はぬものは可愛くもなし。

(三) されは、その獨子われらの主イエスキリストを信す。

われは唯獨りの神を信す。さりとてわれは決してユニテリアン派の信徒にあらず、われは神の三位一体を信す。夫れ使徒信經は三位一体の教理を主張すれども、何の説明をもこれに加へず。これまことに基督信徒に欠くべからざる信仰なれども、宗派によりては或は其解釋を異にするもあるべし。故に他人はわれと全く同一の解釋を信せずとも、われはこれと争ふことをなさざるべし。人をして己のまよひを信せしめよ、説明は如何様にもあれ、これは基督信徒の信せざるべからざるものあり。われは萬物の初に生れたる神の獨子を信す。彼は永遠の父の完く且つ聖なる顯現にして、其榮の光眞体の姿あり。われは此父の獨子は神の本

五

体萬物の主其首なることを信ず神の恩寵により其子に於ける顯現の外に隠れたる神の眞性を知らんとして空しく妄想臆斷の迷に陥らざるを感謝す若しわが理性は頑固にわが心情は傲慢りて神の生を給へる獨子をわが主としわが神として認むること能はずばわわれは如何に不幸なるべきぞ只其獨子によりてのみ父なる神を知るべし天の使者は彼ふよりて父ある神を拜むあり神の諸の使者は皆これを拜むべし〔希伯來書六。一〕

(三) 聖靈によりて孕まし

性來のまゝなる人は神の靈の情を受けずこれ彼には愚なる者と見ゆればなり又これを知ること能はず蓋は靈の情は靈によりて辨ふべき者なるが故なり〔哥林多前書二。一四〕是故に肉の心はキリストの神の靈に由りて生れたることを拒み只婦の腹より生れ出でたる人間の子なりとす

りとす夫れキリストの血脈に由らず情慾に由らず人の意に由らずして唯神に由りて生れ神は即ち其父あれば其性質の全く眞の神あることを主張するは新約聖書の教理の全般に關する必要の件なりとすわれば人間の性質は肉の父のたすけに由らず唯神に由りて新にせらるべしとの思想はまことに基督教の偶の首石なることを信ず是故にわればキリストの聖靈に由りて生れたることを否むは即ち全くわれらが甦生の基礎を傷ふものなることを信ず

是故に人間は其性來のまゝに従へば墮落したる動物也若し主キリスト聖靈に由りて生れざりせば今日に至るも世に人間の救主あかるべし是を以てキリストの神によりて生れたることを否む人は又同ぢく性來のまゝある人の罪惡と怒の子なることを否み甦生の必要なしとする者なり然れどもわれらが信する如く由來墮落したる汚れたる靈

まことにわが心に存らば、われらが救のためには新なる主より賜はれる
墮落せざる聖き靈をわが心に宿らしむるは甚だ大切なる事なりとす。
(四) 處女マリヤより生れ。

これは化身を信ず、即ち神肉躰をとり給へるを信ず、われは化身の教理
は神學の上にのみあらず、哲學の上にも又同く真理なるべきことを
信ず、人間の神の子孫あること、人間と神との關係及人間の神に達すべ
きことは化身の教なくしては悟り得べからざることあり、肉躰となりて
キリストの來り給へることは、人間は如何に墮落せりとは云へ、もと神
の子孫にして神と人間とは互に親子の間柄なれば再び神に似たるも
のとなり得べきことを證する者也。

若しキリストは名のみにあらずして眞の救主ならば必ず神性と人性
との二性を兼ね有るものあらざるべからず、何となれば神性なくば以

て人間を救ふべからず、人性なくば以て人間の友たるを得ざればあり。
されどキリスト眞にイムマヌエルならば人間は救はるゝことを得べ
し、蓋は神と人とは共あればなり。

(五) ポンテオピラトの時苦しみを受け。

聖潔くして不善しきことなく織垢なくして罪人に遠かれる(希伯來書
七・二六)キリストは汚れたる世にあり罪人の間に生活し給ひては又苛
き苦難を受け給はざるを得ざりき實にキリストはわれらの首領とな
りて全人類の罪を荷ひ給へり、ポンテオピラトの時苦しみを受け給ひ
しと雖も實はこれよりも苛き苦難を受け給へり、キリストが肉體に受
けたる外部の苦しみは只其心に受けたる内部の苦しみの薄暗き陰影
とし見ゆ、キリストはわれらの代りに呪咀はるゝ者とあらんがために
來られ、われらが呪咀の中に入りわれらが呪咀は即ちキリストに入り

キリストの受くる苦しみによりて滅ぶるに至れり。キリストはわれらのために罪人とあり、己が知らざる罪のために多くの苦しみを受け給へり。キリストが神性の聖潔を没してこれを罪人とあらしめしはいかに奇しき神の聖意ぞや。

(六) 十字架につけられ。

こはキリストの肉躰の十字架につけられたることなり。されどわれらと共に居給ひし間は毎日キリストの靈魂は十字架あつけられたり。かゝる悲みはよも世にまたとあるまじ人間の肉の界限と暗黒の中に閉ぢ込められし間はキリストには最も苦しき時毎の磔刑にてありき。キリストは降誕の時より十字架の死に至るまで片時だに安すき事なかりき。此賤しき萬人の不安にして腐れたる情態天地萬物を通じて働く死の律法人間の情態わが身の囚人なること、誘惑と恐ろしき暗黒を

もてわれを捕へんとて萬物を盡してこれをあやむる地獄の力さては此世に来れるがために若しや神より離ればせぬかと憂ふる恐しき知覺ありキリストの靈魂は語も想も及ばぬ恐しき十字架につけられ給ひぬ。こゝに記されたる十字架はキリストの生涯に於てつけられたる種々の十字架の結尾にてあるなり。キリストの靈魂は今このカルバリの山上に於て羅馬の兵士につけられたる十字架の苦しみより、ゲツセマテの園に於てなほ苦しき十字架につけられたり。ゲツセマテに流せる血の汗の滴は今此十字架上に流せる血潮よりもあは烈しき苦しみと感じにき。

(七) 死して。

われはキリストの死せることを信ず。われは只其十字架につけられたるがためにのみあらず人間の救主として死すべきの必要ありしがた

めに死せるものなるを信ず。死せる此世の人々に接せしがためにキリストの死したる人となり給ひ、死人の中にて死に勝ち給ひぬ。事切れて彼は十字架より引き下されたり。夫れ死したる人間の救主は自ら死したる人となりて救主たる性質を表はさざるべからず。主の生涯に於て最とも貴きは其死し給へること也。死はキリストの死の中に死に去れり。

(八) 葬むられ。

キリストは死して後常人の如く葬られたり。血を流され、傷つけられ、裂かれたるキリストの屍体は墓場の中に置かれたり。アダムと其億萬の子孫は墓場の中を過ぎ去れり而して億萬の人々は同じく今方に行きつゝあり。此後來る億萬の人々もさては又同じ墓場の塵とやなりなん。人間の救主も亦此墓場に行かんとはすなり。キリストは全く人間の刑罰を受くべし。彼はかたき約束の語もて罪に汚れたる人間を慰め給ふのみあらず、猶實のあるものをもて慰め給ふべし。時至れば人間の性質を棄て去り、再び己が永遠に歸りつゝ死して葬むられしとは云へ永遠の喜の家に入り得るとのかたき證據を墓場の世嗣に與へ給ひぬ。

(九) 陰府に下り。

人間は皆葬むられたればキリストも葬むられたり。人の靈魂は黄泉に入りしかばキリストも靈魂の死人の如く黄泉に下れり。其處にてキリストは其昔ノアの教を従はずして今亦地獄に居る靈魂に説教すあり。彼はいや始まり、彼はいや終あるべし。キリストは死の力を持てる強き人即ち惡魔を其家にて縛り、これが家具を奪ふべし。キリストは此世にありても又靈の世界にありても有ゆる敵の力に打勝つべし。キリストは囚人を見舞ひ給ふべし。信仰を抱いて死せしものはキリストを見

て喜び、キリストは彼等を獄屋の中より救ひ出し、彼等が望めるものを
 與ふべし、キリストは虜者をとりこにしてひきゐる。信するものに天國
 の門を開くべし。キリストは獨りにて歸り給はざるべし。戰場より歸れ
 る勝利の王の如く、其從屬を率ゐて歸らん。
 勇士がうばひたる掠物をいかでとりかへし強暴者がかすめたる虜を
 いかで救ひ出すことを得んや、以賽亞四十九、二十四、これ昔よりの問題
 なり。これが答は下の如し曰く「エホバ如此いひたまふ云く、ますらをが
 掠めたる虜もとりかへされ強暴者がうばひたる掠物もすくひいださ
 るべし」以賽亞四十九、二十五、聖靈ペテロの口よりていひ給ふところ
 によれば靈あるキリストは確かに陰府に下れり、しからざればペテロ
 は「彼は陰府に還ておかれず」使徒行傳三、三一と云ひ得ざりしならん。
 (十三) 目に死人の中より甦り。

かくも根深く救拯の岩を据へ置へては今は地獄の力も其詭計も何か
 あらん、死して葬むられたるキリストは多くの確實ある眞理をもて今
 に其生存へ給ふことを示し給へり、靈にありてはキリストは見ゆる
 世界より來り給ひ、肉にありては墓場の中より來り給へり。キリストは
 死したれども死に勝たれたるものにあらず。キリストは葬むられしか
 ども墓場は彼を留むるの力なかりき。キリストは陰府に下れり、されど
 も陰府は彼に打勝たれたり。キリストは豫ねて其死せる肉體の葬られ
 靈魂の陰府に下るべきを想ひ、未だ肉體をとりて世に來り給はざりし
 時已にダビデの口によりて永遠のことを語り給ふに曰く「汝わがたま
 しひを陰府にすておきたまはず、あんぢの聖者を墓のあかに朽ちしめ
 たまはざる可ければなり、なんぢ生命の道をこれに示し給はん」詩篇十
 六、十一

キリスト三日目に甦り弟子等に會ふていひたまはく、安かれ馬太傳二十八。九。とは先のキリストありされど彼は變はれり先と同玄からだあれどもさりとて同じ身軀にもあらず朽ちず滅びざる聖潔きものとなりわれらと同じ肉と骨とを有てども靈にして榮ある永遠のからだとあれり我手わが足を見て我なるを知れわれを撫て見よ靈は我が在るを爾曹が見るごとく肉と骨とは在らざるなり路加傳二十四三十九キリストの身軀は聖ある榮光の火もてきよめられたる時に見得べき此世の豫言又摸範とあれり昔は浮世の一部分なりし彼が身軀は永遠の世界の頭又冠となれり彼等來り其足を抱きて拜みぬ馬太傳二十八。九。

(十一)天に登り。

今は此世の身軀にわらで聖き靈ある身軀とありつキリストは神のみ

くらゐの下に己の所に擧げられぬ四十日の間弟子等と共に談り甦りの多くの確實ある證をなし見る間に擧がられ雲これを接けて見へざらしめたり過つて敵のためにわきに落されしかば天未だ人間を棄てたまはずキリストの身軀は死しその靈は陰府の虜となりしかば口に言はれぬ喜ばしさよ人間は獵師のわなより救はれ陰府の中よりひき出だされて天に登るべくあれり。

(十二)能はざる所なき父なる神の右に座し。

天の人間のたみに開かれたることは實に恩恵ある眞理なり人間は天の使者天の王其他力あるものどもよりも天に於て高き位に擧げらるゝあり萬物に優りて高く神の子となるべきなり。

人間あるキリストのみ此高き位に登るべし神は天の使者に汝わが右に座せよと命せしことありや天の使者も人なるキリストの榮に及ぶ

べからず如何なる天の使者が辱められ、如何なる天の使者が其身軀は愚弄ふられ、鞭うたれ、荆棘にて裂かれ、恥辱の裡に殺されしや、如何なる天の使者か罪を蒙り迷へる罪人の身代とありしや、是故に人なるキリストは萬の物にも諸の天の使者にも優りて高き位に坐るべきあり。キリストは自ら謙遜りて最も卑きものとなりたれば、いと高き位に擧げらるべし。キリストは萬物に優りて自己を卑くし給へり、是故に神のキリストを擧げてこれに萬物に優れて榮ある名を與へ給へり。イエスの名の前には天に在るものも、地の中にあるものも、地の下にあるものも皆跪き、諸共にイエス、キリストをたゞおまつりて父なる神の榮光のためにキリストを主となすべし。

忘れ給ふな、天地萬物は皆イエスを拜み、たゞおまつりて主とあすべし、これ決して父ある神を潰すにあらざりて、却て其榮光のためなることを。

(十三) 彼所より生ける人と死せし人とを裁判せんか、ために來り給はんを信ず。

時來ればキリストが自辱は公けに現はれ、大に其榮光は現はるべし。キリスト來らば萬人は其前に裁判せらるべし。キリストに似ると似ざるとは其近寄れると遠ざかれるとを判断する律法あり。キリストに近寄れるものは報酬を受け、キリストより遠ざかれるものは罰せらるべし。慈悲深く柔和にして謙遜に高尚くして偉大なる者の萬人を審判し給ふことは親切にして愛あり、正義くして相應しきことなり。

キリストの來り給ふとき如何なる有様なるべきかはわれらの言ふべき限りにあらず。使徒信經は寛大あるものなり、キリストは千年以前に來れりと説くも千年後に來ると説くもこれには關係せざるなり。キリスト自ら此世を治め給ふと云ふも、又こは只キリストが最後の默示を

での靈たまある支配しはいなりと云いふも其そのにこれ説とくもの自由じゆうなり使徒信經しとしんきやうの定さだむるところはキリスト來きたり給たまふべきことと生いける人と死しせし人ひととを裁さい判はんし給たまふべきこととの二件にけんなり。キリストは萬人ばんにんのために死し給たまへり。故ゆゑに審判さはんのためにキリストと萬人ばんにんと相會あひあふべしと定さだめられたり。況いはんやキリストは眞理しんりなり従したがつて一般いぱんの審判さはんなかるべからず。父ちちは凡またて審判さはんを子こに委ゆたねたり。約翰傳よかんとん五。廿二。

使徒信經略解畢

明治二十八年四月廿四日印刷
 明治二十八年四月廿七日發行

編輯者兼

本

多

庸

一

東京府下南豊島郡澁谷村
一番地青山學院内

印刷者

小方

仙之

助

東京市麴町區有樂町三丁目
二番地

發行所

メ

ソヂスト出版舍

東京市京橋區銀座三丁目
八番地

印刷所

青

山學院實業部

東京府下南豊島郡澁谷村
一番地

